

志村 和彦
SHIMURA kazuhiko

stage.1

「kaleido」

題名の「kaleido」とはカレイドスコープ、つまり万華鏡のことです。
移りゆく周りの景色や時間を形態に取り込み、千変万化した街の風景を鑑賞者に見せてくれることでしょう。



永長 さくら
EINAGA sakura

stage.2

「Total Perception」

それらは
四方の壁に囲われた、ある
一つの断片を
浮遊する



田原 崇雄
TAHARA takao

stage.2

「絶景」

僕のかつての通学路を記憶の中で歩いてみて、空白の場所に新たなイメージを勝手に付け足していくと、だんだん調子に乗ってきて、意味不明な建物が次々にそびえ建っていくのでした。



武末 裕子
TAKESUE hiroko

stage.4

「名前のない動物・水」

はるか昔、人間は言葉を身につけ、それぞれの動物種に名前をつけました。
名づける事により、その存在を認識し、強め、定義づける。
『名前のない動物』とは人間に表象的にとらえられることの無い存在のこと。



山本 浩二
YAMAMOTO koji

stage.1

「PHLOGISTON No.227」

「フロギストン説」
18世紀のはじめにドイツ人シュタールによって提唱された燃焼に関する学説。すべての可燃性物質は灰とフロギストンからできており、燃焼時にフロギストンが放出され、後に灰が残るといったもの。物質の化学的性質は灰とフロギストンの割合によって決まるとされていた。



北川 宏美
KITAGAWA hiromi

stage.2

「さんぽさん ～ 取手編 ～」

とことことこと
りりりりりりり
でくでくでくで
あつ、こんにはあ
るるるるるるる
ことことことこと



手銭 吾郎
TEZENI goro

stage.3

「Feel IV」 「Feel V」



この街の風景を観てきた。
この街は僕の時間の一部分になった。
そして僕の一部分がこの街の風景となった。

制作：東京芸術大学美術学部彫刻科 金属研究室・工芸科 鍛金研究室
計画：東京芸術大学美術学部建築科 六角研究室
後援：取手市教育委員会
取手アートプロジェクト実行委員会
撮影：丸子成明